

CITY X UNIVERSITY



大阪市立大学広報誌

Vol.16

October • 2014

Vol.16 CONTENTS

●P1 特集／鼎談

都市型総合大学として市民のさらなる健康増進を!

“健康科学”への取り組み

西澤 良記 大阪市立大学 理事長・学長

渡邊 恭良 大阪市立大学 健康科学イノベーションセンター 所長

河田 則文 大阪市立大学医学部附属病院 先端予防医療部 副部長



Health Science

●P5 OCU NEWS BOX

浸水避難計画のための大阪梅田地下街の人・都市構造の把握
熱版スマートグリッド「サーマルグリッドシステム」実証開始
ほか

●P6 大学トピックス

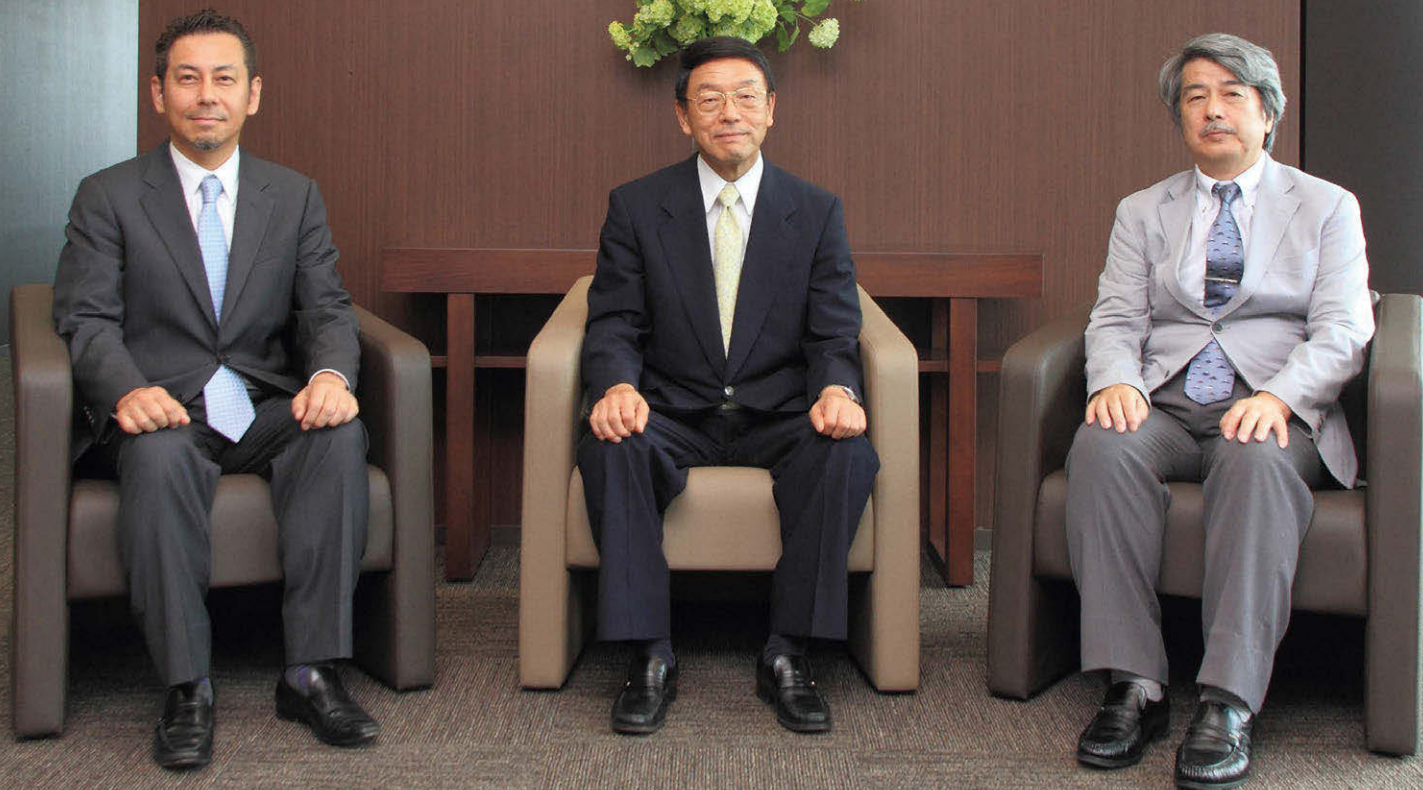
「就職支援パートナーシップ制度」に参加!
平成26年度「大阪市立大学国際学術シンポジウム」を開催
オープンキャンパス2014を開催
ほか

●P9 @ Campus 【アットキャンパス】

海外でさまざまな経験をしてみませんか?
大阪市立大学短期日本語研修プログラムを開催
「平成25年度特別研究員等審査会専門委員表彰」を受けました!
「第67回朝日レガッタ」男子エイトの部で第6位に入賞!
ほか

●裏表紙 OCUインフォメーション

公開講座のお知らせ
大阪市立大学夢基金



河田則文

Norifumi Kawada

大阪市立大学医学部附属病院
先端予防医療部 副部長

西澤良記

Yoshiki Nishizawa

大阪市立大学
理事長・学長

渡邊恭良

Yasuyoshi Watanabe

大阪市立大学
健康科学イノベーションセンター 所長

都市型総合大学として市民のさらなる健康増進を!

“健康科学”への取り組み

平均寿命が80歳を超え、長寿化する一方で生活習慣病を患う患者も増加しています。

健康でいかに長生きするか、いわゆる「健康寿命」の増進が現代社会の課題のひとつに挙げられている中、

本学では、重点戦略プロジェクトとして全学的に“健康科学”に取り組んでいます。

今特集では、本学の健康科学の2つの拠点である「健康科学イノベーションセンター」と「^{メッドシティ}MedCity21」の取り組みと、公立大学法人としてめざす健康増進へのアプローチ・展望を、3人の先生方に語っていただきました。



健康科学で 大阪を健康で元気にする

——最初に、健康科学を重点戦略にされた背景をお聞かせください。

西澤 今年で3年目になる第二期中期計画の中の「都市科学」について少し触れさせていただきます。健康科学はその主な範疇にあります。中期計画の策定にあたって議論が重ねられたのが、医学部を含めて8学部10研究科からなる総合大学、しかも公立大学である本学は何をすべきかということでした。いい換えると、総合大学である本学の学問や研究、機能を一言で表せる言葉って何だろう?と。そこで、いろいろ検証・検討した結果、出てきたのが「都市科学」だったのです。

——都市とともに、ですね。このワードは本学の歴史と伝統ですね。

西澤 そうです。都市科学と漠然と掲げてもジャンルは広いので、3つの課題を挙げてそれぞれプロジェクト化して推進していこうとなったのです。1つ目は「次世代エネルギーの開発研究」、2つ目が「健康科学研究の推進」、そして3つ目が「都市防災研究の促進」です。今後はこれらを重点戦略としてそれぞれのビジョンをより鮮明に打ち出していこうと考えております。なかでも健康科学への取り組みをより明確にしていこうと。なぜ重点戦略として健康科学をやるのか、それは医学部をもつ公立の総合大学の社会的使命や意義に関わることであります。大阪の健康環境は全国的に見て決して良好とはいえないからです。その辺の事情は河田先生がよくご存知です。

河田 ご指摘のとおり、大阪の健康環境は

全国の都市ランキングでもかなり低い位置にあります。大阪の「健康状態」についていえば他の都市や地域にはない特徴があり、例えば、いまだに結核が多いのです。私の専門である肝臓病の分野でいえば、全国の重傷の肝疾患患者の10分の1が大阪に集中しています。あるいは都市特有の生活習慣、生活環境に由来するような疾患、糖尿病や肺疾患が多いのも大阪の地域性といってもいいかもしれません。

西澤 死亡率も高いですね。

河田 高いですね。大阪人気質といえますか疾患に対してあまり気遣いされない傾向がうかがえます。人間ドックの受診率も全国最低レベルです。病気や健康に対する考え方が大阪の場合、他の都市や地域とは違ったところがあります。そうした大阪という都市の特徴に、本学が健康科学という視点で取り組むということが、まさにこの重点プロジェクトのポイントであると思っています。医学部をはじめ、ほかの学部・研究科とも連携・協力しつつ、まさに総合大学として健康科学を推進していけば、大きな成果が得られるのではないのでしょうか。本学にはそのパワーもスキルも十分にありますから。

西澤 そうですね。まさに、ここが大事なポイントではないかと思えます。この成果により大阪市民の方々に対する健康という「利益」をぐんと拡大できるのではないかと。先にもふれました

が、これが公立大学の市民への貢献として、本学の存在意義に大きな意味を持つだろうと考えています。

グランフロント大阪に 健康イノベーションの拠点

——では、健康科学の定義、または取り組みについてご説明いただけますか。

西澤 定義はいろいろあると思いますが、私がおもうには、肉体的・精神的に健康であり、活気に満ちたものであるという状態を維持・増進させることが健康科学のアプローチの一つです。もう一つは、健康を維持するために未病、まだ病気には至っていないけれど放置すれば病気に発展する状態を未然に抑制するというアプローチです。渡邊先生、どうでしょうか。

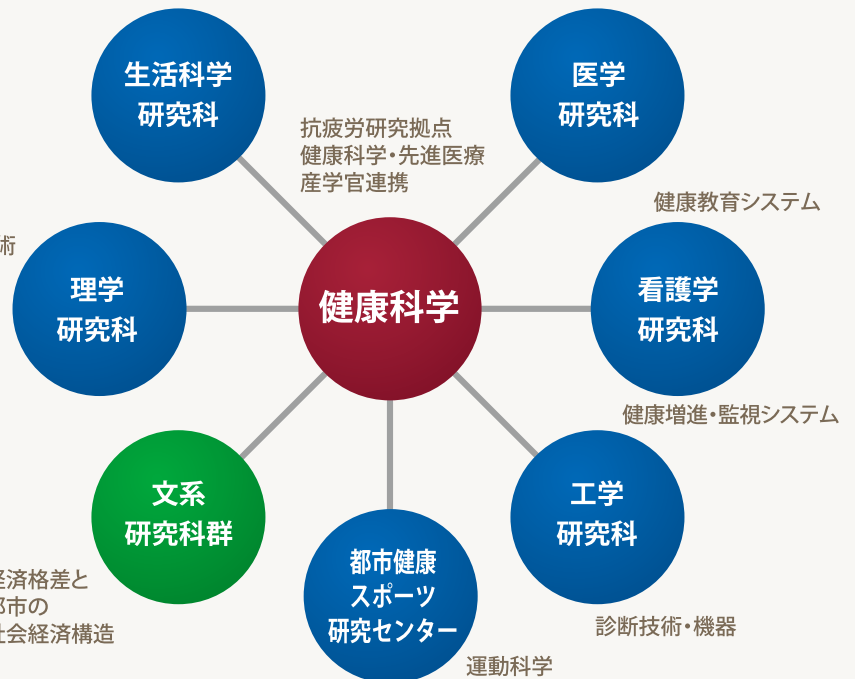
渡邊 西澤学長のお話の通り、健康科学の範疇に「病気」も含めるかどうかについてはいろいろ意見があると思いますが、病気を患って治ったけれど、まだ本調子ではないという方、あるいは二次障害[※]を起こらないようにすることも含めて健康科学でやっていけばいいのではないかと考えています。あくまで私的な思いでは

※二次障害とは、疾病や病態に直接起因する一次障害の発生時には存在せず、経過に引き続いて発現してくる障害のこと

食育・QOLプロモーター
食品栄養科学・機能性食品

疲労研究全般:資料の臨床・疫学・脳医学
バイオマーカー探索・抗疲労製品試験

健康・体内時計調節技術
安全な野菜のための
有機栄養剤



大阪市立大学 健康科学への取り組み概念図

本学では総合大学としてのメリットを生かし、医学部はもちろん、理系・文系の研究科が互いに連携し、さまざまな分野からのアプローチで「健康科学」に関する多くの研究を実施しています。なかでも万病の元といわれる「疲労」に関する研究は本学の特色であり、学内だけでなく産学官の連携によって様々な医療サービスや製品の研究を展開し、注目を集めています。



ありますが。ただ、一般的にいわれる「健康」というのは、健康的な段階でいかに前向き・積極的に健康をつくっていくことができるのか、健康の障害になるものを取り除いていくのか、ということでしょうか。

西澤 そうですね。そこで、この二つのアプローチで健康科学を推進するために大阪のキタとミナミに開設したのが二つの拠点です。一つは大阪駅前の「グランフロント大阪ナレッジキャピタル」9階に設けた「健康科学イノベーションセンター」。もう一つは今年4月に天王寺駅前の「あべのハルカス」21階に開設した「MedCity (メッドシティ) 21」。私なりに役割の違いをいうと、前者は健康な人を評価し、健康を維持するためにどうしていくかを指導する。後者は健康を確認し、病気にならないために何をどうしていくべきかを示唆する。微妙なニュアンスの違いですが、「健康」をキーワードにつなげていくと考えています。渡邊先生、健康科学イノベーションセンターの所長として開設1周年の印象はどうですか。

渡邊 みなさんの関心は非常に高いです。グランフロントという、今、日本中から注目を集めている場所にセンターを開設できたというのは非常に良かったですね。大学病院を飛び出して、たくさんの方が集まる所でいろんな検査や計測ができればいいなと前から思っていました。というのも、多くの人からすると、大学病院の敷居はまだ高く、それゆえに、先の大阪人気質で言われたように、「かなり危ない」といわれないと病院に来ない人がかなりおられると感じていたからです。

西澤 それはあるでしょうね。

渡邊 やはり検査で大学病院へ、となると億

劫になられてしまう。今の時代、自宅で血圧を測るのは珍しくないくらい健康のパロメーターには関心が高い。疲労度や骨密度の測定にも関心はあるのですが、そのネックになっていた要因として気軽に立ち寄れる「場所」の問題があったと思うのです。その点、グランフロントでは、いろんな人が行き交い、気軽に立ち寄ることができる。通勤の途中であつたり買い物のついでであつたり。それまでの研究では学会や大学、あるいは自治体や企業などの協力や応援で行ってききましたが、当センターでは一般の生活者を巻き込んで、より創造的な研究ができる環境になると同時に、健康科学をシーズとしたさまざまなイノベーション創出の場にもなるのです。

西澤 渡邊先生は「疲労」について顕著な研究をされておられますが、疲労というのは現代人にとって健康上の重要な指針でもあります。健康科学イノベーションセンターに何かのついでに立ち寄って疲労度を計測してもらい、アドバイスを受けるだけでも健康が保たれる。その成果が研究にも生かされ、より多くの人々の健康にも貢献するというわけです。

渡邊 はい。疲労度測定は21世紀COEプログラムの成果で、これまで意識されていなかった健康に対する新しい軸ができたことと歓迎されています。また、疲労度だけでなく、さまざまな健康に関する測定を受けていただいたり、アドバイスも行っています。今年の4月から「健康見守り隊」も開始しました。現在、会員数はまだ何百人単位ですが、数は着実に伸びており、法人会員として会社まるごと入会していただいている企業もあります。いろんな業種のいろんな方が「健康見守り隊」を通じて情報交

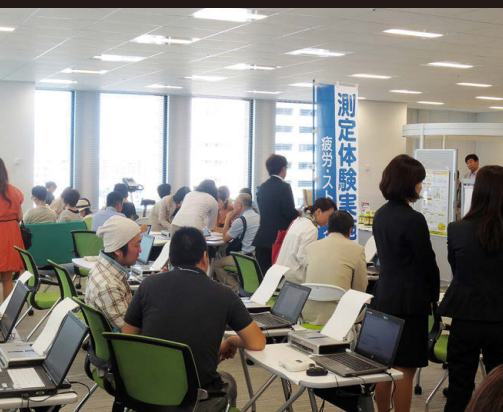


換、異業種交流を促進し、きっとそこから何か新しいモノやコトが生まれてくるという期待を持っています。開設して1年ですが、徐々に大きな潮流になってきているのを肌で感じます。それほど健康への関心が高まっているのです。ですから、センターでは計測やアドバイスにとどまらず、家庭用の新しい計測器の開発や健康的な食事のレシピの提供および食品の開発、あるいは外食産業への食材の供給などにも進出しつつあります。

西澤 いいお話ですね。健康を科学するという切り口で、いろんな可能性がうまれてくる。場合によっては新しいビジネスの創出も可能ですね。

渡邊 はい。それこそ総合大学である本学のノウハウとスキル、医学部のみならず、高齢社会や食品栄養で研究実績が豊富な生活科学部や工学部等と連携し、また産・学・官・医・市民が協力すれば間違いなく、健康維持への貢献プラスのサムシングニューが生まれてくるに違いありません。

西澤 そうなるといいですね。話を聞いていて私もワクワクしてきました(笑)。あとは、より多くの人に健康科学イノベーションセンターを知っていただく努力をしないとね。



健康科学イノベーションセンター

大阪・梅田の「グランフロント大阪ナレッジキャピタル」9階に2013年7月に開設された健康科学の研究拠点。産・学・官・医・市民の連携によって、抗疲労研究を中心とした健康維持・先制医療への先進的取り組みの発信、新たな製品やサービスの創出、セミナーやイベントの開催による地域貢献と健康科学についての啓発のほか、健康科学研究に関わる研究者や産学連携等を促進するコーディネーターなど、高度専門人材の育成を行うことを目的としています。



最先端の予防医療を あべのハルカスに

——それでは、健康科学のもう一つの拠点「MedCity21」についてお話しください。

西澤 「MedCity21」は医学部附属病院の先端予防医療部の直属で、いわゆる人間ドックの機能を備えた施設です。これは公立大学としては初の試みです。

河田 「MedCity21」は、天王寺駅前の「あべのハルカス」21階に今年4月に開設しました。グランフロントのある梅田が大阪の北の玄関口に対して、天王寺・阿倍野は大阪の南の玄関口です。「MedCity21」が担う役割は、先ほどから話にも出ていますが健康寿命の延伸です。少子高齢化が進むとともに要介護高齢者も増加の一途で、できるだけ健康で元気に高齢期を過ごしていただけるようにすることが使命です。国としては予防医療・介護予防を推進することによって医療費や介護給付金の縮減という政策上の問題でもあり、そういう意味で我々も政策に則って大阪市や府に貢献できるかと考えています。

西澤 たしかにそういう面での貢献もあります。でも、本学の哲学としてはやはり、個々の方々

の人生において健やかな長生きを願っての健康科学ですよね。

河田 もちろんそうです。あくまで健康長寿が趣旨です。高齢になっても、自分で身の回りのことができ、自分のことは自分でする、決める。自立というのがやはり人間としての尊厳の基本ですから。そこで、医学部附属病院先端予防医療部がこのクリニックを立ち上げました。

大学病院が人間ドックを運営するというのは非常に珍しいケースです。健康な状態をどうしたら維持できるかをチェックする役割と機能は他の人間ドックと同じですが、他と決定的に違うのは、人間ドックといえど、大学病院と同じ高い医学知識を持つ医師と最新鋭の設備で、医学レベルの高い検診を受けていただけることです。これが大きなポイントだと思っています。

西澤 人間ドックの専従医師はたいてい1人です。常勤が6人もいるというのはおそらく日本中捜しても他にはないですよ。いまでは笑い話ですが、OBの病院経営者の方々からは「こんな贅沢なことするなんて」とお叱りを受けたりしたほどです。

河田 そうですね。それくらい贅沢です。この立地・場所柄から、気軽に受診に訪れられる方が増えています。他の人間ドックとは、そういう点でも大きく違います。通勤の途中や買い物のついでなど、受診する機会ときっかけが明らかに従来とは違ってきている印象です。これは場所と環境による大きな変化が関係していると思います。奈良や和歌山の方が大阪に来たついでにふらっと立ち寄れる、そんな感じですね。

西澤 スタートしてまだ約半年ですが、健康管理がより身近にできるようになったという意味では大きな社会貢献だと思っています。

河田 より多くの方に「MedCity21」を知っていただくために活動の幅も広がっています。例えば、ハルカスビル内にハルカス大学というプロジェクトがあって、ビルに勤務している方やビルに来られる方に対して自分たちの情報を発信する場を用意してもらっていて、8月から毎月、健康や疾患に関する講演をさせてもらっています。初回は広報活動を行っていなかったにも関わらず200人以上の方に聴講していただきました。女性を対象にした乳がんの講座も多くの女性が聴講していただき、徐々にですが情報発信を通じて本学や「MedCity21」の活動が認知されはじめています。

また、レディースクリニック部門を備えていて、妊娠の検診や階下の百貨店の化粧品部門などとタイアップして、女性の健康に関わる美容セミナーを催したりしています。お肌で悩んでおられる方の相談に乗るだけでなく、ハルカスに来るとドクターの意見も聞けるというわけです。そういう気軽さの仕組みも、健康科学を普及・推進していく上で重要なんだということが分かってきましたね。

西澤 グランフロントの「健康科学イノベーションセンター」とハルカスの「MedCity21」。役割は微妙に違うけれど、互いに連携し、総合大学の強みである他学部との協力を密にすることで、重点戦略として推進する健康科学は私たちが想像する以上の成果をもたらしてくれそうな手応えを感じています。それが本学の、さらには大阪のパワーにもなるのではという意味で、極めて意義のある取り組みだと思います。

——健康科学が大阪を元気にしてくれる。そういう印象を持ちました。先生方、本日は長時間、ありがとうございました。

メッドシティ 先端予防医療部附属クリニック MedCity 21

大阪・天王寺の「あべのハルカス」21階に2014年4月に開設された公立大学法人としては全国初の健診施設。がんや脳卒中、生活習慣病などの早期発見・早期治療のため、人間ドックを主にした健診により予防医療を実践しています。また、診療部門としてレディースクリニック(産婦人科・皮膚科・乳腺科)など専門外来も併設しており、大学病院の持つ専門性の高い人材と高度先進医療を生かし、地域の医療機関と連携しながら医療サービスを提供しています。



1

浸水避難計画のための大阪梅田地下街の人・都市構造の把握

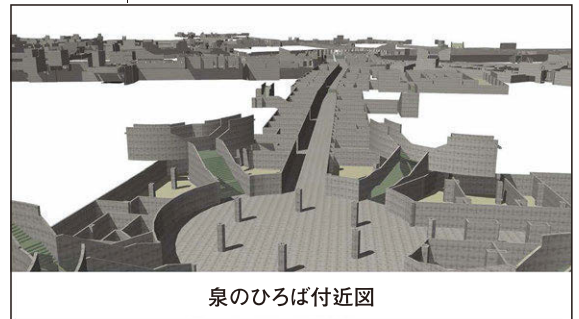
工学研究科の谷口与史也教授らのグループは、大都市ターミナルの地下空間のひとつである大阪市北区の梅田地下街（東西に約1.1km、南北に約1.1km）を対象として、地下構造の空間情報を統合して海拔基準との関係を調査し、洪水や津波による浸水被害把握のための地理情報の基礎となる3次元データを構築しました。

加えて、津波災害時の浸水対策および避難計画の提案のために、地下街の各エリアにおける避難時間と津波到達

時間との関係を数値シミュレーションにより明らかにし、避難行動の安全性の評価を行いました。

今後は地下街に接続している地上建物との関連を明確にし、この3次元データを用いて様々なビッグデータによるシミュレーションが可能となるように調査を進めていきます。

梅田地下街(泉の広場付近)の3次元データ



泉のひろば付近図

工学研究科
谷口与史也 教授



2

熱版スマートグリッド「サーマルグリッドシステム」実証開始

工学研究科の中尾正喜特命教授らのグループは、平成24年度より、環境省地球温暖化対策技術開発・実証研究事業「既設熱源・電源を自立・分散型エネルギー化し鉄道網を利用した地域融通

エネルギーシステムの開発」の受託事業の一環として、熱版のスマートグリッドと言える「サーマルグリッドシステム」の研究開発を行ってきました。

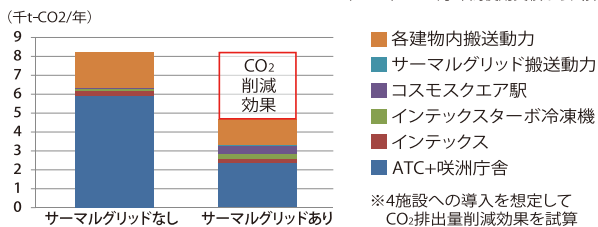
そして、平成26年8月12日(火)より「咲州

地区スマートコミュニティ実証エリア」であるATC(アジア太平洋トレードセンター)と大阪府咲洲庁舎間に構築した「サーマルグリッドシステム」の実証を開始しました。

このシステムは、各負荷(空間に必要な空調の冷温熱)と各熱源(熱を生み出す機器)間を自在に熱融通(サーマルルーティング)し、負荷の要求に応じた異なる温度の冷温水を運ぶ(熱パケット)こととあわせて、空調の高効率化を実現する画期的なシステムです。このシステムを導入することにより、一般的なビルで4割程度の省エネルギー化と、設備導入・運用のコスト負担を劇的に改善することが期待されます。

コスモスクエア駅、インテックス大阪、ATC、咲洲庁舎に大規模実導入の場合 サーマルグリッドシステムのCO₂削減効果は約43%

(2012年1~12月年間使用実績から試算)



※4施設への導入を想定してCO₂排出量削減効果を試算

工学研究科
中尾正喜 特命教授



3

耐性菌を作らない新たなMRSA感染治療法

医学研究科の鶴田大輔教授、小澤俊幸講師、院生の森本訓行さんのグループは、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)感染皮膚潰瘍を、世界ではじめて天然アミノ酸(5-アミノレブリン酸:ALA*)の全身投与とLED光を用いた光線力学療法(PDT)で治療することに成功しました。

この治療法は新たな耐性菌を生じる事がないため、耐性菌治療に難渋する現代医療において、新たな細菌感染の治療法として期待されます。本研究の成果は、米国東部時間平成26年8月20日(水)午後2時発行(日本時間8月21日(木)午前3時)の米オンライン科学誌

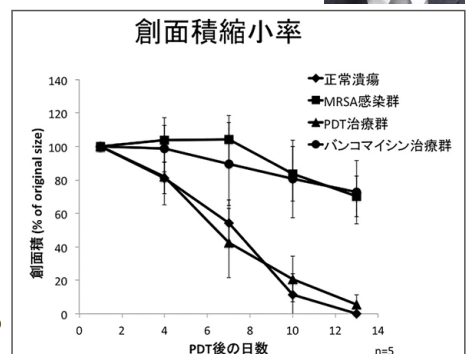
「PLOS ONE」に掲載されました。

本研究は文部科学省科学研究費助成の支援を受け、企業との共同研究で実用化研究を進めています。数年以内にMRSA感染皮膚潰瘍に対する前臨床試験を行い、実用化につなげたいと考えています。

※体内のミトコンドリアで作られるアミノ酸でエネルギー生産に関与するタンパク質の原料となる重要な物質。

MRSA感染群皮膚潰瘍の光線力学療法での治療効果

医学研究科
小澤俊幸 講師



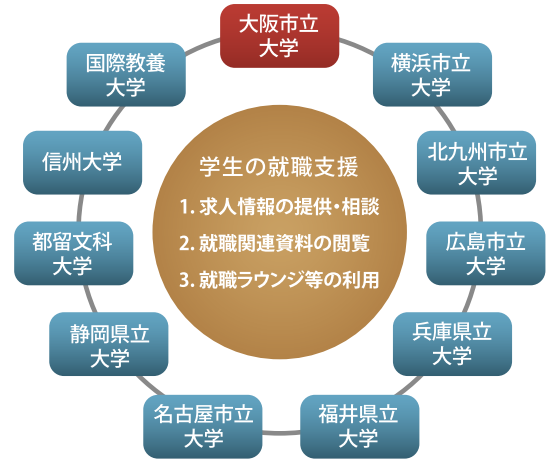
Photodynamic therapy using systemic administration of 5-aminolevulinic acid and 410-nm wavelength light emitting diode for methicillin-resistant Staphylococcus aureus infected ulcers in mice
【論文名】 「マウス背部のMRSA感染皮膚潰瘍に対する5-アミノレブリン酸と410nm LEDを使用した光線力学療法」



■「就職支援パートナーシップ制度」に参加! ~パートナー大学間での求人情報閲覧・相談などが可能に~

平成26年6月から「就職支援パートナーシップ制度」に参加し、Uターン・Iターン就職を希望する学生向けの就職活動支援を強化しました。

この制度は、首都圏以外で就職を希望する学生の就職活動支援を強化するために平成25年11月に横浜市立大学が立ち上げたもので、国公立大学を中心に全国的なネットワークの構築をめざしています。本制度の導入により、学生は就職を希望する地域の本制度参加大学で様々な支援を受けられるようになります。インターネットでは得られない地元優良企業の求人や、その地域ならではの情報を得ることにより、企業とのマッチングの機会が増え、より質の高い就職活動が可能となります。



協定締結大学

大阪市立大学、横浜市立大学、北九州市立大学、静岡県立大学、名古屋市立大学、兵庫県立大学、福岡県立大学、都留文科大、国際教養大、信州大、広島市立大

※パートナー大学の学生は、全てのパートナー大学で就職支援を受けることができます。

パートナー大学での支援内容

- ① **就職支援**
大学に提出された地元企業の求人や会社説明会の情報提供、および就職相談の実施
- ② **就職関連資料の閲覧**
就職支援部門の書籍等の利用開放
- ③ **就職関係資料閲覧スペースの利用**
インターネットや書類作成時のデスクの利用開放 など

■「Times Higher Educationアジア大学ランキング2013-2014」で第71位にランクイン!

「Times Higher Education*アジア大学ランキング2013-2014」で第71位にランクインしました。全体では昨年の69位よりわずかに順位を下げたものの、日本国内では昨年の16位から今年は14位に躍進しています。

なお、昨年はアジア100位以内に日本の大学が22校ランクインしていましたが、今年は20校に減少しており、その中で本学の順位が上がったことは大変喜ばしいことです。

※イギリスのタイムズが発行している高等教育情報誌です。

Times Higher Educationアジア大学ランキング2013-2014

アジア順位	国内順位	大学名	スコア
1	1	東京大学	76.4
7	2	京都大学	63.2
13	3	東京工業大学	50.8
15	4	大阪大学	49.0
16	5	東北大学	48.5
27	6	首都大学東京	41.6
29	7	名古屋大学	41.5
39	8	東京医科歯科大学	37.7
42	9	筑波大学	35.2
48	10	北海道大学	33.4
50	11	九州大学	33.0
63	12	順天堂大学	29.8
64	13	早稲田大学	29.4
71	14	大阪市立大学	28.1
72	15	慶應義塾大学	28.0
74	16	広島大学	27.9
88	17	神戸大学	25.6
94	18	岡山大学	24.5
96	19	金沢大学	24.1
98	20	千葉大学	23.9

出典:<http://www.timeshighereducation.co.uk/world-university-rankings/>

■企業の人事担当者が選ぶ大学総合ランキングで第3位にランクイン!

転職・就職支援の日経HRが企業の人事担当者を対象に実施した、「企業の人事担当者が選ぶ大学総合ランキング」で、京都大学、神戸大学に続き、第3位にランクインしました。

「対人力」「知力・学力」「独創性」などの5項目に関して調査し、その結果を集計・得点化して作成されたもので、本学は国公立大学の得点が低かった「対人力」の項目で比較的点数が高かったことと、しっかりと学業に取り組んでいるイメージが高かったことが評価につながりました。

企業の人事担当者が選ぶ大学総合ランキング

順位	大学名	総合得点
1	京都大学	180.1
2	神戸大学	158.7
3	大阪市立大学	157.2
4	筑波大学	155.3
5	一橋大学	154.8
6	徳島大学	153.3
7	早稲田大学	151.3
8	慶應義塾大学	149.5
9	九州大学	148.3
10	名古屋大学	148.0
11	東京工業大学	147.4
12	大阪大学	147.1
13	関西学院大学	145.8
14	工学院大学	142.6
15	明治大学	141.7
16	兵庫県立大学	141.1
17	同志社大学	140.6
18	千葉大学	140.0
19	東京都市大学	139.9
20	国士舘大学	138.7

出典:日本経済新聞 平成26年6月16日朝刊

■ 平成26年度「大阪市立大学国際学術シンポジウム」を開催

平成26年7月22日(火)～7月24日(木)の3日間、大阪国際交流センターなどの会場において「国際学術シンポジウム～包摂型創造都市と文化多様性～」を開催しました。

今年は、第5回国際ラウンドテーブル会議および第3回国際都市創造性学会の共同開催となり、UNESCO事務局長補(文化担当)/元UNESCO世界遺産センター長のフランチェスコ・バンダリン氏やドルトムント大学名誉教授のクラウス・クンツマン氏、前文化庁長官の近藤

誠一氏など、世界でも活躍されている都市・文化研究の専門家をお招きし、文化遺産の重要性や都市の創造性、社会包摂のあり方などについてご講演いただき、活発な議論を繰り広げました。



西澤学長の挨拶

フランチェスコ・バンダリン氏の講演風景



■ 上方文化講座2014「本朝廿四孝」を開催

平成26年8月27日(水)～29日(金)の3日間、学術情報総合センター10階にて、文学部特別授業上方文化講座2014「本朝廿四孝」を開講しました。

上方文化講座は、日本を代表する伝統芸能の「文楽」に光を当て学問的体系のもとに学ぶもので、本学教員と共に作品の普遍的な魅力を多角的に分析していく特別授業です。一人でも多くの方に「文楽」の魅力を知っていただくため、本学の学生に加え、一般市民の方も条件を満たせば受講していただけます。

大阪の地で生まれ育れた「文楽」は、2003年にUNESCOの世界無形遺産に登録され、日本国内だけでなく世界中から注目されています。文楽界の第一線で活躍する技芸員の竹本津駒大夫・鶴澤清介・桐竹勘十郎の三師を講師としてお招きし、今年は可憐なヒロイン八重垣姫と妖しい狐が活躍する「奥庭狐火の段」を実演いただきました。



村田教授の授業風景



「奥庭狐火の段」の実演風景

■ 保護者交流会を開催【教育後援会】

平成26年7月19日(土)に、住吉大社にて保護者交流会 第一企画を開催しました。保護者64名、委員等14名が参加し、住吉大社の境内見学および八木孝昌氏による講演、昼食をとりながらの懇親会など、にぎやかな雰囲気のもと保護者同士の交流が行われました。

第二企画は10月18日(土)に「理学部附属植物園の魅力」についての講演と植物園見学を実施し、第三企画は11月29日(土)に「疲労」について学ぶ渡邊恭良健康科学イノベーションセンター所長の講演と疲労度測定の実施を予定しています。



当日参加された保護者の方々

■ 「開高健関西悠々会講演会(第2回)」を開催【同窓会】

平成26年7月19日(土)に、学術情報総合センター1F文化交流室にて「開高健関西悠々会講演会(第2回)」を開催しました。関西悠々会会員72名および一般市民を含む、熱心な開高健ファンの方々が参加し、文学研究科の奥野久美子准教授に

よる「紙の中の戦争～開高健の芥川龍之介批判～」と題した講演会、学術情報総合センター内に設置している開高健図書コーナーや屋上庭園(アステリア)の見学を行いました。



奥野准教授の講演風景

■ オープンキャンパス2014を開催

平成26年8月7日(木)・8日(金)は阿倍野キャンパスにて、8月9日(土)は杉本キャンパスにて、オープンキャンパス2014を開催しました。

杉本キャンパスでは9日(土)・10日(日)の2日間の開催予定でしたが、台風の接近に伴い、初日は大雨の中での開催、2日目は暴風警報発令のため残念ながら中止となりました。

各学部・学科の説明会、施設の見学やミニ講義等、さまざまなプログラムが開催され、両キャンパス合わせて9,000名以上の方にご参加いただきました。



杉本キャンパスの様子(9日)



医学科の学科説明会の様子



■ カフェレストラン「野のはなハウス」がリニューアルオープン

これまで「ウイステリア」として親しまれてきた学術情報総合センター1階のカフェレストランが、平成26年9月10日(水)にリニューアルオープンしました。

落ち着いた色合いのインテリア、一人でも入りやすい窓際のカウンター席、ゆったりくつろげるソファ席など、居心地の良い空間となっています。また、入口のガラスドアのデザインは生活科学部居住環境学科3回生の渡邊香織さんが「本の森」に似せたデザインであることと、レストラン名の「野のはな」をイメージして制作したものです。生活科学部人間福祉学科では授業の一環として障がい者の就労支援実習を行っており、このレストランでは障がいのある方もスタッフとして働いています。



生活科学部3回生の渡邊さんと三浦教授



落ち着いた色合いの店内



奥のソファ席

営業時間	平日 9:00~21:00 (LO 20:00) 土曜日 10:00~21:00 (LO 18:30) 定休日 日曜日、祝日
電話番号	06-6605-3328
ホームページ	http://nonohanahouse.rest/index.htm

■ 大阪エヴェッサを応援しよう!

平成26年4月2日(水)に、プロバスケットボールチーム大阪エヴェッサと包括連携協定を締結しました。この連携協定は、公式試合の約半数を住吉区で行っている大阪エヴェッサと、住吉区にキャンパスを持つ本学が相互に活発な交流を行うことで、活力ある地域社会を創り、人材育成の発展に寄

与することを目的としています。

現在、大阪エヴェッサが住吉スポーツセンターで行う試合の当日券を、学生は本人を含め2名まで、教職員は本人を含め4名まで半額で購入できる事業がスタートしています。お友達やご家族の方と一緒に、大阪エヴェッサを応援しましょう!!



大阪エヴェッサの試合風景

海外でさまざまな経験をしてみませんか?!

2014年度より「大阪市立大学はばたけ夢基金」による学生の海外留学・海外渡航を支援する制度がスタート!

対象者	大阪市立大学に在籍する学生(学部生、大学院生)
応募資格	<ul style="list-style-type: none"> ●意欲をもって海外留学・渡航する者で、目的達成のために必要な外国語能力を有し、帰国後も引き続き本学に在籍する者。3か月以上の長期留学者については、上記に加え受入れ大学が要求する語学水準を満たしている者。 ●帰国後、はばたけ夢基金に関する各種広報活動や、学生への海外留学の啓発活動に協力できる者。
支援対象	<p>2週間以上1年以内の海外留学・渡航のうち、次のいずれかに該当するもの</p> <p>(1) 本学と学術交流協定を締結している海外の大学または研究機関への交換留学・派遣</p> <p>(2) 国際センター又は各部署等が実施する海外研修プログラムのうち指定のもの</p> <p>(3) 研究目的で海外の大学または研究機関に派遣されるもののうち各部署が推薦するもの(学会出席等を除く)</p>

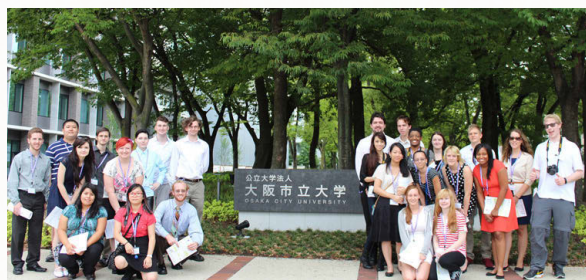
支援内容	<p>(1) 短期(2週間以上3か月未満) 一時金 6万円~10万円</p> <p>(2) 長期A(3か月以上6か月以内、又は4学期制1学期間) 一時金 18万円~30万円</p> <p>(3) 長期B(6か月以上1年以内) 一時金 36万円~60万円</p>
支援件数	125件程度(予定)
応募期限	第2回募集締切: 2014年11月28日(金)
提出書類	<p>①申請書※ ②成績通知書</p> <p>③TOEIC認定証・TOEFLスコア等の語学力を証明するための書類</p> <p>④(3)により海外渡航・留学する場合は各部署長の推薦書*</p> <p>※各種書類、募集要項はポータルサイトからダウンロードしてください</p>
問い合わせ	国際センター(研究支援課国際交流担当) 電話: 06-6605-3557

大阪市立大学短期日本語研修プログラムを開催

平成26年5月7日(水)から3週間、アメリカのユタ州にあるウィーバー州立大学の学生11名が、大阪市立大学短期日本語研修プログラムに参加しました。参加した学生は日本語授業や本学学生との交流会などを通して日本文化についての理解を深めました。



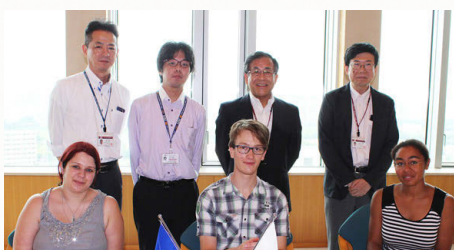
KAKEHASHI Project北米地域の学生と交流



平成26年6月27日(金)、KAKEHASHI Projectに参加している北米地域の大学生23名が大阪市立大学を訪問し、学内の施設見学や本学学生との交流を行いました。平成27年3月には、本学からも米国へ学生を派遣し、3つの都市を訪問します。

フランス ル・アーブル大学交換留学生が表敬訪問

平成26年7月2日(水)、商学部が学部間協定を締結しているフランスのル・アーブル大学国際学部の交換留学生3名が、宮野副学長を表敬訪問しました。商学部とル・アーブル大学国際学部は1990年に学部間協定を締結しており、今年の秋には、本学商学部学生がル・アーブル大学へ留学する予定です。



韓国のソウル国立大学と国際学術交流協定を締結



平成26年8月18日(月)、韓国ソウル国立大学のDaehee Kang学部長らが医学部を訪問され、教育・研究分野の連携および交流の基盤拡大により、交換留学を開始することを目的とした国際学術交流協定を締結しました。

「平成25年度特別研究員等審査会 専門委員表彰」を受けました!

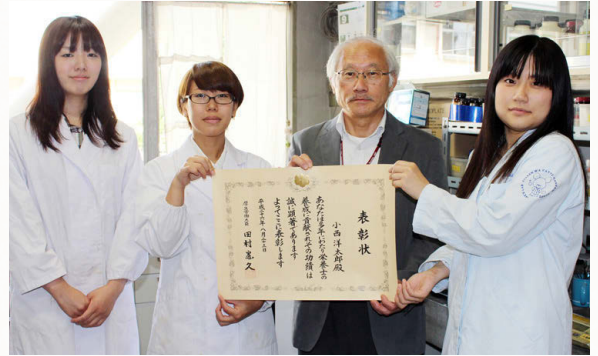
理学研究科の櫻木弘之教授および工学研究科の中山正昭教授が、独立行政法人日本学術振興会 (JSPS) からの表彰を受け、平成26年9月2日 (火) に西澤良記学長より表彰状が手渡されました。平成25年度は書面審査を行った約1,800名の専門委員のうち、表彰対象となる約900名の中から83名が表彰されました。



左より櫻木弘之教授、西澤学長、中山正昭教授

「平成26年度栄養関係功労者 厚生労働大臣表彰」を受けました!

生活科学研究科の小西洋太郎教授が、平成26年8月23日 (土) に栄養士養成功労者として厚生労働大臣より表彰を受けました。これは、栄養改善事業の普及向上および長年に渡る栄養士・管理栄養士養成、栄養指導業務に顕著な功績があった方を表彰するもので、平成25年度大阪府栄養関係功労者としての知事表彰に続いての受賞となりました。



小西教授と研究室の学生たち

「第67回朝日レガッタ」男子エイトの部で第6位に入賞!

ボート部が平成26年5月3日 (土) ~6日 (火) に開催された「第67回朝日レガッタ」男子エイトの部で第6位に入賞しました。



【男子エイト】第6位

経済学部4回生 渡部 兼三 (主将)	工学部3回生 原田 正喜
経済学部4回生 太田 健貴	商学部2回生 松井 亮介
経済学部4回生 中小路 亮太	商学部2回生 渡瀬 翔太
経済学部3回生 廣岡 雄矢	工学部2回生 島 広一
理学部3回生 堀田 弘時	

「第39回関西学生複合馬術大会」で好成績を収めました!

馬術部が平成26年7月5日 (土)・6日 (日) に開催された「第39回関西学生複合馬術大会」の総合団体の部で第3位、障害飛越競技で第2位という好成績を収めました。

【総合団体の部】第3位
商学部3回生 中濱 満 (主将)
文学部3回生 駒井 諒一
法学部3回生 野田 実希
法学部3回生 柳澤 有紀

しょうがいひえつ
【障害飛越競技】第2位
商学部3回生 中濱 満



「第58回関西学生弓道 選手権大会」男子個人の部で 第3位に入賞!

弓道部の山本佑大さん (工学部3回生) が平成26年5月24日 (土)・25日 (日) に開催された「第58回関西学生弓道選手権大会」男子個人の部で第3位に入賞しました。



「第21回全日本大学かるた選手権大会」で優勝!

競技かるたサークルの澁谷健さん (生活科学部1回生) が平成26年8月9日 (土)・10日 (日) に開催された「第21回全日本大学かるた選手権大会」新人戦の部 (個人) で優勝しました。



公開講座のお知らせ

お申し込み方法・締め切り日など、詳しくはホームページをご覧ください。
<https://www.connect.osaka-cu.ac.jp/openlectures/>

文化交流センター講座「大阪の再生とみらいー part2」

関西の経済・文化の中心地である大阪がさまざまな問題を抱え、今や危機的な状況にあるといわれている中、大阪の危機を打開するため、いろいろな角度から大阪の再生とみらいを考えます。

- 会場：大阪市立大学 文化交流センター ホール(大阪駅前第2ビル 6階) TEL 06-6344-5425
- 定員・対象：16歳以上の方(住所・勤務地に関係なく申し込みます) 各回120名、先着順
- 参加費・受講料：各回500円(大阪市立大学の学生は無料)

未来の良医育成のために

ー「へえー、お医者さんってそうやって育つんだあ」

- 日時：2014年11月6日(木) 18:30~20:00
- 講師：大阪市立大学大学院医学研究科 教授 首藤 太一

中小企業と自治体政策

- 日時：2014年11月19日(水) 18:30~20:00
- 講師：大阪市立大学大学院経営学研究科 教授 本多 哲夫

アベノミクスの光と影

- 日時：2014年12月3日(水) 18:30~20:00
- 講師：大阪市立大学大学院経済学研究科 准教授 久保 彰宏

失敗の仕組み

~どうやって学ぶか、どうやって成長するか~

- 日時：2014年12月5日(金) 18:30~20:00
- 講師：大阪市立大学大学院医学研究科 講師 山口(中上) 悦子

大阪市立大学夢基金

『大阪市立大学はばたけ夢基金』から
『大阪市立大学夢基金』へ

～ 夢 の 継 承 ～

平成21年10月より募集を開始しました「大阪市立大学はばたけ夢基金」は平成26年9月末日をもって募集を終了いたしました。皆様方のこれまでのご支援に深く感謝いたします。

「大阪市立大学はばたけ夢基金」に皆様より賜った寄附金および現在実施中の事業を継承すべく、平成26年10月に「大阪市立大学夢基金」を設立いたしました。大阪市立大学が遥か未来にわたって在学生・卒業生・市民の皆様々に愛され、『夢』のある魅力あふれる大学であり続けるために、引き続き「大阪市立大学夢基金」にお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

大阪市立大学にいただいたご寄附は以下の事業に活用いたします。

1. **グローバル人材の育成**
国際的な知的インフラ、知的拠点をめざして
2. **キャンパス施設・環境整備**
快適な環境づくりをめざして
3. **教育・研究・医療環境の充実**
より充実した教育・研究・医療環境づくりをめざして

個人・団体を問わずご賛同・ご支援いただける方は、
大学サポーター事務局までご連絡くださいますようお願い申し上げます。

お問い合わせ **大学サポーター事務局(大阪市立大学夢基金)**

〒558-8585 大阪市住吉区杉本3-3-138
 TEL: 06-6605-3415 (平日9時~17時) FAX: 06-6605-3416
 Eメール: yumekikin@ado.osaka-cu.ac.jp
 ホームページ: <http://www.osaka-cu.ac.jp/ja/about/fund/index.html>

大阪市立大学広報誌

CITY
X
UNIVERSITY Vol.16

発行：公立大学法人 大阪市立大学
 企画・編集：大学広報室(企画総務課広報担当)
 デザイン協力：desk
 発行日：2014年10月

本誌に関するお問い合わせ・ご意見・ご感想は
 大阪市立大学 大学広報室
 〒558-8585 大阪市住吉区杉本3-3-138
 e-mail: t-koho@ado.osaka-cu.ac.jp

本誌に掲載の写真および原稿の無断転用を禁じます

グローバルな都市研究・教育拠点



大阪市立大学
OSAKA CITY UNIVERSITY

杉本キャンパス

商・経・法・文・理・工・生活科学 各学部・各大学院研究科・本部
 〒558-8585 大阪市住吉区杉本3-3-138

阿倍野キャンパス

医学部・大学院医学研究科・大学院看護学研究科・医学部附属病院
 〒545-8585 大阪市阿倍野区旭町1-4-3

梅田サテライト

大学院創造都市研究科・文化交流センター
 〒530-0001 大阪市北区梅田1-2-2-600 大阪駅前第2ビル6階

<http://www.osaka-cu.ac.jp>